

女性の活躍と未来への挑戦



企業レポート

野依 佐千子*, 力石 正子**

Women's active participation and challenges for the future

Key Words : Women's active participation, challenges for the future

はじめに

ロート製薬は1899年2月22日創業、今年で121周年を迎えました。鳩が飛ぶ広告が記憶にある方も多いと思いますが、本社は大阪市生野区にあります。創業時は「万病の元は胃にある」との思いから、「胃活」という胃薬（現在のパンシロンにつながる）から始まり、その後、日露戦争後に眼の感染症が広がったことから目薬（現在のVロートにつながる）を開発し、1949年には社名もロート製薬に変更しています。現在、その事業領域はObagiやハダラボなどのスキンケア分野にも広がり、また、食や再生医療分野にもチャレンジしています。

理系出身者の女性の活躍の場も広がっており、女性の視点を生かした製品開発も進めてきています。こういった動きをご紹介することで、今後の女性研究者を応援することができればと思います。



図1 ロート製薬 本社社屋

社会背景

日本では、総人口が減少する中、高齢化率は上昇し続ける一方、生産年齢人口（15～64歳）は急速な減少が予想されています（図2）。

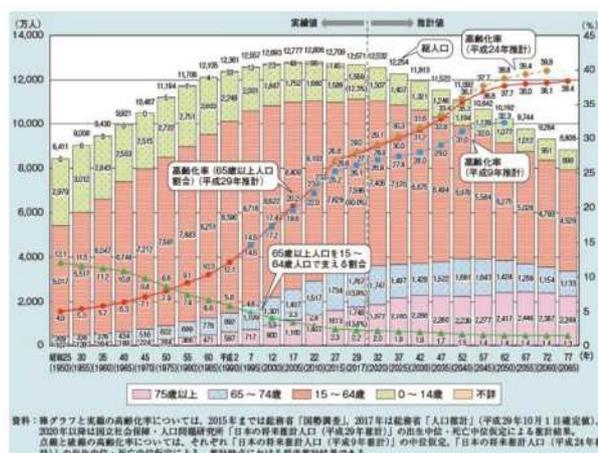


図2 日本における高齢化の推移と将来推計¹⁾



* Sachiko NOYORI

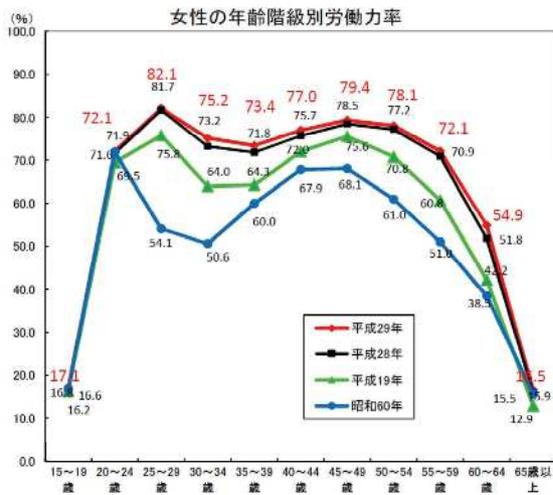
1967年1月生まれ
大阪大学薬学部薬学科 (1989年)
現在、ロート製薬株式会社
医薬品・機器開発部 部長 薬剤師
TEL : 06-6758-8213
FAX : 06-6757-1106
E-mail : noyori@rohto.co.jp



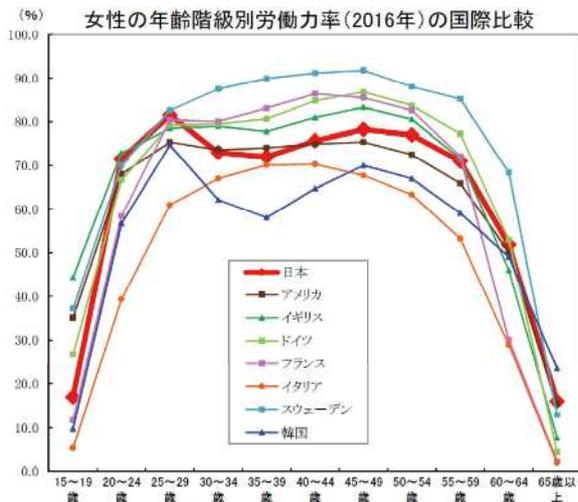
** Masako RIKIISHI

1959年4月生まれ
大阪大学薬学部薬学科 (1982年)
現在、ロート製薬株式会社
上級執行役員 製品開発戦略デザイン本部 本部長 薬剤師
TEL : 06-6758-1231
FAX : 06-6758-1106
E-mail : yone@rohto.co.jp

そのような中、女性の労働力の活用が期待されているところですが、日本の女性の年齢階級別労働力率をみると、10年前と比較すると、いわゆる「M字カーブ」の底を中心に労働力率は大きく上昇したというものの、先進国に比べると、未だ、M字カーブの傾向は顕著となっています（図3）。



資料出所：総務省「平成29年労働力調査」



資料出所：日本、総務省「労働力調査」(平成28年)
 その他(独)労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2018」
 注) アメリカ、イギリス、イタリアの「15~19」は「16~19」のデータ、
 スウェーデンの「65~」は「65~74」のデータである。

図3 女性の年齢階級別労働力率 (過去の推移/諸外国との比較)²⁾

ロート製薬における女性活躍に向けた動き

ロート製薬では、男女雇用機会均等法以前より、女性の従業員比率が5割を超えていましたが、やはり、結婚・出産で退職する人は多く、上記のM字カーブの傾向は顕著でした。

そのような中、育児休業法制定後の1993年に女性文系総合職の採用拡大、1994年に、お茶くみや女性の制服廃止等の風土改革に取り組み、また、2003年には、社員公募のARK(明日のロートを考える)活動で、「女性イキイキプロジェクト」が発足。育児休業拡大(当時で、1歳を超えた4月までの延長を可能に)と共に、2005年の婦人科検診スター

ト(男性用の検診も同様に始めています)、企業内保育所の要望が高かった上野工場での企業内保育所「さくらんぼハウス」の開所につながりました。また、2018年には、婦人科検診の無償化に踏み切っています(表1)。現在では、出産後の復職率は100%、女性管理職比率は約17%までになりました。これは女性を特別扱いにせず、男女ともに一人一人が生き生きと働ける風土づくりの結果だと思っています。

表1 女性を取り巻く時代の変化とロート製薬での活動

年	
1985	男女雇用機会均等法
1991	育児介護休業法制定
1993	女性文系総合職採用拡大
1994	風土改革(お茶くみ・女性制服廃止等)
2003	ARK活動 育児休業拡大
2004	次世代育成支援対策推進法制定
2005	婦人科検診スタート
2009	企業内保育所(上野工場)開設
2016	女性活躍推進法施行
2018	婦人科検診無償化

太字部分がロート製薬での活動

スキンケアや女性の悩みに応える製品開発へ

1988年にアメリカのメンソレータム社を買収。それ以前より、ワセリン、1-メントール、カンフル等を有効成分とする皮膚薬の「メンソレータム」を提携販売していましたが、これを機に皮膚用薬のカテゴリーにも本格的に参入。その後、乾燥と痒みに効く製品、「メンソレータムAD軟膏」や女性をターゲットにした水虫薬の「エクシブ」等の医薬品開発を進めると共に、

ハダラボやObagiといった機能性化粧品分野にも事業を広げていきます。

ObagiはピュアビタミンCを高濃度配合した美容液ですが、その安定性と効果(浸透性)の立証は医薬品的な発想で開発・品質担保しています。



また、女性の悩みに応える製品開発という面では、妊娠検査薬の「ドゥーテスト・hCG」、排卵日検査薬の「ドゥーテスト・LH」は赤

ちゃんを望む女性に寄り添う製品で、いずれも薬局で購入できる一般用医薬品とするため、業界を先導して取り組んだものです。



特に排卵日検査薬に関しては、二人目が出来ないという相談電話がスタートでした。調査していくと殆どの方が基礎体温をつけておられ、体温が高くなった日もしくはその翌日に性交されている実態がわかり、卵子の受精能力は排卵してから約24時間しかない事をご存じなかったのです。ですので、排卵が事前にわかる検査薬は是非作りたいと思い、長年かかりましたが、女性社員の尿を集めたりして到達できた製品です。



また、皮膚や腸などに常在しているカンジダ菌が原因で起こる膣カンジダは、女性の5人に1人が経験すると言われていたのですが、多くの海外では一般用医薬品として販売されているにもかかわらず、日本では薬局では入手できないものでした。これも、多くの女性研究者の想いで、日本初の一般用医薬品化に成功。また、女性の為を考えた、1回タイプやアプリケーター付きも開発・上市しています。

再生医療へのチャレンジ

ロート製薬は、2011年から再生医療の本格的な研究を開始しましたが、その大きな理由の1つが、化粧品や皮膚用製品の研究開発で得た「細胞を扱う技術」と目薬を量産するための「無菌製剤製造技術」という、これまで培ってきた独自の技術が活かせる事と、現在の薬では治せない難治性疾患に悩まれている方々に、何とか力になれないか、という想いがあったからです。そして、高品質な細胞を自動で作出す、完全閉鎖系無菌システムでの「自動培養装置」の開発に国内で初めて成功しました(図4)。また、大阪大学を始め、様々な研究機関と連携し、

2017年には「肝硬変」に対する再生医療を用いた治験を日本で初めてスタートさせ、2020年には、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の重症肺炎を対象とした治験も開始致しました。



図4 自動培養装置

社外チャレンジワーク(副業)

近年では、女性に限らず新たなチャレンジを応援する取り組みが社内では多くなされており、その1つが「社外チャレンジワーク」です。会社の壁をやぶって、外部の仕事との二刀流。外部環境に採まれることで多くの刺激を受けて個人の可能性を広げチャレンジ精神を育てることが目的です。奈良での地ビール事業や大学ゼミのゲスト講師など、自らの可能性を社外での社会活動として発揮するチャレンジにも取り組んでいます。

おわりに

本稿では、女性の活躍と企業のチャレンジという観点から、ロート製薬での取り組みを企業レポートとして紹介させて頂きました。生活、健康、子育て、介護、いろんな角度で学んだ事は、いろいろな場面で応用でき、豊かな生活に貢献できると思いますので、視野を狭めず技術革新を推進していきたいと考えています。今後も生産と技術の発展を祈っています。

参考文献

- 1) 内閣府 平成30年版 高齢社会白書
https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/zenbun/s1_1_1.html
- 2) 厚生労働省 平成30年版 働く女性の実情